

# 新規採用教員へのインタビュー



黒田 奈穂子 くろだ なおこ  
県立玉島商業高等学校 教諭  
(令和6年度採用)

自己紹介

高校教諭(保健体育)として令和6年度採用されました。初年度は1年生、今年度は、2年生39人の担任をしています。ソフトテニス女子のナショナルメンバーに選ばれた経験もあり、ソフトテニス部(男女)の顧問を担っています。

**Q** 教員を目指した理由を教えてください。

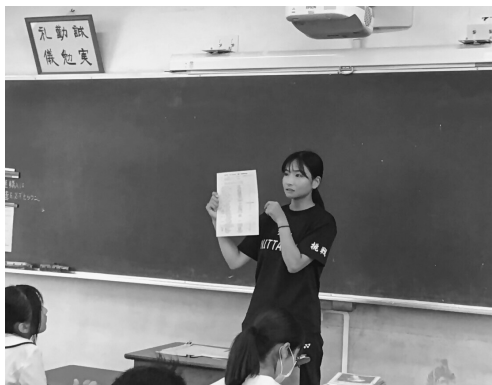
小学校3年生からソフトテニスが続けてきたことが大きなきっかけです。ソフトテニスに打ち込みたいと思い、体育大学に進学しました。せっかく体育大学に進学したので、教員免許を取っておきたいと思い、中学と高校の保健体育の教員免許状を取得しました。その大学では教員は卒業後の主な就職先の一つで、同級生の7割ほどが教員の道に進んでいます。

県外の大学でしたが、岡山県出身で、国体などでもずっと岡山にお世話になっていたので、

いつか恩返しができたらという思いがずっとありました。そこで、教員免許を生かして岡山に貢献したいと考え、教員を目指すことにしました。

大学4年生のときに教員採用試験を受けましたが、不合格でしたが、ちょうどコロナ禍ということもあり、大学院に進学して専修免許を取得する道を選びました。大学院在学中の2年間も教員採用試験を受けましたが合格には至らず、大学院修了後は1年間、常勤講師として勤務しました。その後、高校教諭(保健体育)として採用していただくことができました。人に何かを教えることは嫌いではなく、スポーツに関わり続けたいという思いもあったので、他の職ではなく、教員になりたいという気持ちを持ち続けていました。校種については、最初は中

学校の方が採用いただける可能性があるのではと考え、中学校で出願したのですが、高校の方が自分に合っていると考え直し、高校教員を目指すようになりました。



授業の様子

**Q** 講師の経験について教えてください。

新採用となる前に1年間、県立玉島商業高校で常勤講師として勤務しました。引き続き同校で新採用となりました。

大学院では運動処方専攻していたため、教育学部出身の方と比べて、教員として必要な知識が十分ではありませんでした。

「校務分掌」という言葉にも当初は戸惑いましたが、勤務する中で少しずつ理解し、身に付けることができました。本校は、ベテランの先生が多く、いつも明るく声をかけてくださいます。相談しやすい職場環境で、自分だけで判断せず、先生方に確認しながら対応することを心がけています。

**Q** 授業で大切にしていることを教えてください。

私自身は幼い頃から運動が得意でしたが、授業では「上手にできること」よりも、「楽しく身体を動かせること」を大事にしています。たとえ上手にできなくても、スポーツのルールを知っていれば、いつか何かのきっかけで身体を動かすことにつながりかねません。運動が苦手な生徒の中には、みんなの輪に入りにくかったり、身体を動かすこと自体を恥ずかしいと感じたりする子も多くいます。その殻をいきなり破るのは難しいことだと思うので、少しずつ

「できた」という成功体験を積み重ねていけたら、それで十分だと考えています。

また、保健体育の座学の内容は、必ずしも今すぐ必要になることばかりではありません。けれど、私自身、大人になってから「そういうえば、こういうのもあったな」「これは大事だな」と思い出すことが多くあります。生徒が将来、必要な場面に直面した時に授業を思い出してもらえよう、少しでも印象に残る授業づくりを、これから工夫しながら取り組んでいきたいです。

**Q** 生徒たちとの関わり方で大事にしていることはありますか。

初めは、先生方の指導の仕方を見て「そんなにきつく言わなくても」「もう少し自由にやらせてあげたら良いのでは」と感じることはありませんでした。ですが、勤務する中で「そのままにしておく、こうなってしまうから、今の段階でちゃんと伝えておかないといけない」という



授業の様子

ことに気づき、指導の重みを意識するようになりました。

部活動の指導でも、私が曖昧な指示を出してしまったために、生徒が様々な要求をしてくるようになり、一つ一つの要求に対応することが困難になったことがありました。この経験からも、早い段階できちんと伝えておくことが大事だと実感しました。良くないことはしっかりと良くないことを伝え、良いところはたくさん褒めるようにしています。

**Q** 新採用の1年間はどのように生徒対応で、どのように関わ

るか。

つたら良いか困ることがあり、気持ち的にもしんどい時期がありました。ですが、副担任のベテランの先生に助けていただいたり、なんとか乗り越えることができました。

**Q** 今後の抱負を教えてください。

新採用1年目に生徒対応に苦慮した経験から、生徒に寄り添う力をもつと必要だと実感しました。私は落ち込むことはありますが、「悩んでも仕方ない」「もう終わったこと」「これも経験だから、学んだと思つて切り替えて頑張ろう」と気持ちを切り替えることが得意です。

しかし、落ち込むことがあった時の考え方は人それぞれです。今後は、生徒一人一人の気持ちに寄り添い、それぞれの考え方に合わせた柔軟な関わり方ができる教員を目指して取り組んでいきたいと思っています。

**Q** 最後に、是非伝えたいことはありますか。

本校の生徒は素直な子が多く、喜んだり悲しんだりする一つ一

つの様子がよく見え、とても愛おしく感じています。高校生でも、毎日の成長に驚かされることが多いです。例えば、1年生の時に指導した内容を、2年生になった時に自分たちで考えて率先して行動している姿を見て、とても嬉しく思いました。

実際に学校で勤務する中で、責任感ややりがいが大きくなったと感じます。少しでも教員の仕事に興味がある方には、ぜひ挑戦してほしいと思います。



部活動の様子